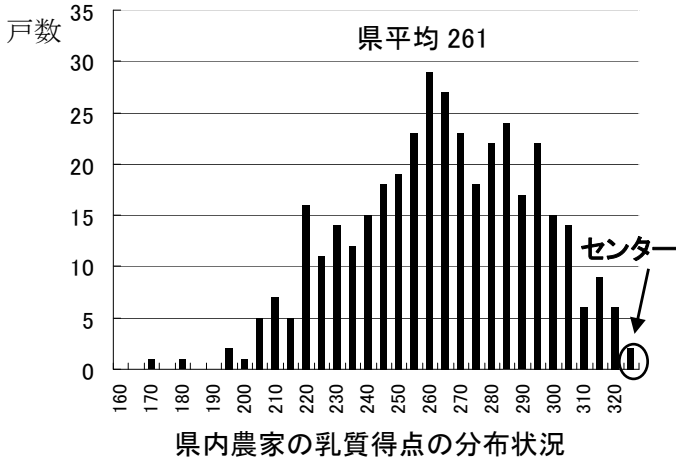


# 愛知県畜産総合センターだより

(平成25年1月)

平成24年度からセンターの生乳販売を県酪協に委託することになり、センターの乳質を農家の皆さんと同じ土俵で比較できるようになりました。平成24年6月～11月の需要期におけるバルク乳検査成績(東海酪連検査所)の集計データから、センター及び県内農家の乳質についてご紹介します。

## ○ 県内農家の乳質評価



需要期のバルク乳検査成績(乳脂肪・SNF・乳蛋白質・細胞数・細菌数)を **324 点満点** で評価した得点の分布状況が左表です。評価は県酪協乳質コンクールの採点方法に従っており、月 3 回のバルク乳検査の都度に、乳脂肪 3.60%以上、乳蛋白質 3.00%以上、SNF8.40%以上、細胞数 10 万以下、細菌数 10 万以下をクリアすれば満点になります。これは乳質評価の基準であり、誰でも手の届く水準で設定されていますが、ご覧のとおり、継続して満点を取ることは、どの生産者にとっても難しいようです。幸いにもセンターは 320 点で県トップの評価となりましたが、乳脂肪と細胞数で減点を受けています。

## ○ 乳成分について

### ☆ 乳質評価の減点

	乳脂肪	SNF	蛋白質	細胞数	細菌数
センター	3	0	0	1	0
県全体	4.0	0.7	0.3	53.8	4.1

### ☆ 生乳の成分値

	乳脂肪	SNF	蛋白質	細胞数	細菌数
センター	3.74	8.87	3.32	6.4	3.3
県全体	3.82	8.74	3.29	25.6	7.4

続いて、乳成分について、センターと県全体の成績をご紹介します。県全体を見れば、乳質評価の減点のほとんどは細胞数です。そして、センターの乳脂肪や乳蛋白質・SNF の成分値は、皆さんとほとんど変わりません。生産者のポリシーは様々ですが、センターでは、牛を健康な状態で管理し、消費者が安心できる生乳の出荷を持続していこうと考えています。

北海道の乳質向上は目覚ましいと聞きます。大消費地を抱える愛知の立地条件を活かし、飲用仕向けの消費を維持・拡大していくためにも、乳質向上の努力は不可欠だと思っております。

## ○ センターでの乳質維持の取組

**【乳脂肪・SNF・乳蛋白質】** 産乳量とのバランスであり、個別の成分に特化した向上対策は行っていません。毎月の牛群検定結果を活用し、牛群が必要とする栄養量を満たすよう、随時、給与飼料の内容を見直しています。また、THIメーター(蒸し暑さで乳牛が感じる不快感を表示する器具)で牛舎環境を評価し、細霧・送風装置や牛体洗浄等の暑熱対策を組合せ、夏場のストレス軽減などに努めています。

**【細胞数】** 搾乳機器のメンテナンスを怠らず、また、毎月の牛群検定結果からリストアップした体細胞数増加牛に対し、乳房炎検査を実施し、乳房炎の早期発見・治療に努めています。

**【細菌数】** バルクの温度や洗浄状況を監視するとともに、定期的に牛床・牛体を洗浄し衛生的な環境を維持しています。

ちょっと偉そうに書いてしまいましたが、実は、この夏に乳質の低下で地域の皆さんにご心配をおかけしたばかりです。春先から飼料設計を大幅に見直し高エネルギー飼料へ切替えたのですが、乳牛の反応が「産乳量の増大→乳脂率の低下」となり、バルク乳で乳脂率 3.5%を下回ってしまいました。ちょうど、集乳単位の合乳成績が低下した時期に重なり、ご心配をおかけした訳です。夏季の採卵や受胎成績の向上を狙った飼料見直しでしたが、動物の反応は一筋縄では行きません。長期間に渡って一定以上の乳質を維持することは実に難しく、相変わらず試行錯誤の連続です。